

Hall of Fame～京都産業大学ラグビー

平成28年のチームは、殿堂入りと言っていいほどの大活躍。大学選手権、花園ラグビー場での明治大学との一戦は、創部して目標としていた同志社大学に初めて勝った昭和の一戦、嵐の平和台で「早稲田、風に敗れる」なんて放送された選手権と合わせて、京都産業大学ラグビー史上、最高に感動した試合でした。選手権でことごとく倒されてきた明治に7度目の挑戦で勝利。しかも、雑草集団をこれだけのチームに育てあげたのは、明治大学のレジェンド・元木由記雄コーチですからたまりません。



立ち上がりに弱い京産大、いきなり連続トライされて嫌なムード。(0-12)

「やっぱりメイジに勝てないの？」

「いや、応援団が弱気になってどうする！勝つぞ～！勝つぞ～！」

「柴田、中川、ほっその！」スクラム押して、ラインアウトも好調。伝家の宝刀ドライビングモール炸裂で待望のトライ。加えて強烈なドライビングモールで逆転トライ。ファカイがグランディングしましたが、フォワードの努力の結晶、バックスもモールの中に入っの、押せ押せ。(14-12)明治も粘りを見せて前半、14-19で折り返します。

後半は、一進一退のディフェンス合戦。こちらフォワードで中川が抜けてTG、明治もPG1つ加え21-22のスコアから攻め込まれてピ～ンチ。やめて～と思っていたら、明治ノックオン。坂本が拾い上げて80m独走でトライ(26-22)・・・あと10分。ここからの明治の猛攻は壮絶。タイムキーパー制・後半40分終了のフォーンが鳴っても攻撃が止まらない。

シーズン最初の試合は同志社。インジュアリータイムに逆転トライを許した嫌な記憶が頭をよぎる。伝統に負けた、レフリーに負けた、方位・方角が悪い・・・なんて言い訳考えるのと、秩父宮に行く段取りなど考えるので、頭の中はぐちゃぐちゃ。ピッチもぐちゃぐちゃで、素晴らしいディフェンスを続けて、ノットリリースザボールの判定で、ノーサイド。(26-22)



初の明治戦勝利で、スタンドも、狂喜乱舞。勝ってしもた～！誇り高きフィフティーンは、ホール・オブ・フェイム。真野組は、ファカイ、李(リ)、シモラなんて横文字の選手も含まれますが、最高のチームだったと思います。



公式戦、関西大学リーグでは、同志社、天理と2連敗、それから5連勝で、リーグ3位からの、大学選手権。明治に勝ってベスト8進出。試合巧者の東海大学に敗れて今シーズンを終えましたが、「One for all, All for one」なんてラグビー精神が最も似合う最高のチームでした。

個人的に、今年は神山グランドでのオープン戦や練習には一度も行けなかったのですが、公式戦に関しては、雨が降ろうが、秩父宮であろうが、全て現地で試合を見守って、「中川～落ち着いて～！」「下良～誕生日やもんな～！」などと声掛け、「スクラム選択～！」「押せ～！」と精一杯、声を出して応援してきました。



今シーズンも、ありがとうございました。来シーズンは、もっと凄いことが起こるかも・・・京都産業大学ラグビー部、バンザ〜イ！





平成28年12月21日記

Top
[トップ](#)
[↑](#)

Back
[戻る](#)